

VI 各専門教科におけるカリキュラムの提案例

1 各専門教科における学校設定科目の提案例

(1) 農業科「アグリプレナーへの扉」

**学校設定科目「アグリプレナーへの扉」** ※1 アグリプレナーとは農業に関する新しい事業を起こす起業家のこと。(九州経済調査協会 2014年2月定義)

**魅力ある農業教育を** 目指して

**目標**

- (1) 实际的・体験的な学習を通して専門教科への学びの意識を高め、専門的知識・技術を身に付けさせる。
- (2) 日本あるいは地域の農業の担い手として何を学ぶべきか、自分自身にとって何が必要かを考えさせる。また、農業高校で学んだ知識・技術を世の中のために役立たせようとする倫理観を身に付けさせる。
- (3) 未来の産業を担うために、自発的に課題の設定や解決を図ろうとする態度を育ませる。
- (4) グローバル人材として求められる日本の高い栽培技術と高い専門性について理解させ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。

単 元	学習内容・活動	主な評価規準と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本農業の局面（農業新時代）</li> <li>○グローバル化時代の渦中にある日本の農業とは</li> <li>○「アグリプレナー」について（イノベーションへの取組1）</li> <li>○イノベーションへの取組2～4</li> <li>○実学の時間1～7</li> <li>○ふるさとの農業について</li> <li>○安全・安心な農業について</li> <li>○未来を拓こう・未来へつながるプロジェクト1</li> <li>○未来を拓こう・未来へつながるプロジェクト2</li> <li>○国際協力としての農業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成長産業」としての農業について意欲的に学ぶ。 (例) 公益財団法人九州経済調査協会講師による講義を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関心・意欲・態度</b> 日本農業の局面に関心を持ち、成長産業としての農業に関する学習に興味をもつ。(記述内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材として求められる日本の高い栽培技術、高い専門性などについて意欲的に学ぶ。 (クールジャパン, Made by JAPAN) (例) 世界に通用する日本の高い栽培技術、高い専門性について調べ学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関心・意欲・態度</b> 農業のグローバル化に関心を持ち、世界に通用する日本の高い栽培技術、高い専門性などに興味をもつ。(記述内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化に通用する高い技術と専門性を伝達することができる語学力を身に付ける。 (例) 授業のなかで5分程度、仕事現場を想定した会話をテクニカルタームを使い、ロールプレイングを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>知識・理解及び技能</b> テクニカルタームを使い、コミュニケーションがとれている。(行動観察など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の先駆的实践者及び農業関連ビジネスの実践について意欲的に学ぶ。 (例) 農業経営の先駆的实践者及び農業関連ビジネスの実践例を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関心・意欲・態度</b> 農業経営の先駆的实践者及び農業関連ビジネスの実践者の取組に関心を持ち、新しい農業の取組に興味をもつ。(記述内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私が考える農業新時代とは～未来に繋がる農業経営と農業ビジネスの新しい地平～」について学ぶ。 (例) 農業経営の先駆的实践者及び農業関連ビジネスの実践例を聴き、新しい農業について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>思考・判断・表現</b> 現代の農業経営に関する課題の解決について考え適切に判断し、新しい農業の取組について創造し表現している。(記述や発言の内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通して新しい農業の形態について学ぶ。 (例) 農業新規参入、農産物輸出、6次産業化、農産物直販、ICT農業、植物工場、観光農園に取り組む企業などに出向き、新形態の農業を体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関心・意欲・態度</b> 新しい農業の形態に関心を持ち、就業体験に取り組んでいる。(行動観察など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の約2割の農業産出額を誇る「農業王国」九州の農業について学ぶ。 (例) 福岡県全体及び県内各地域の農業について調べ学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>知識・理解</b> 九州及び福岡県の農業の実態について理解している。(筆記テストや記述内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な栽培管理・流通などについて学ぶ。 (例) 農業生産工程管理(GAP)手法、残留農薬がジティブリスト制度、トレーサビリティシステム、危害分析重要管理点手法(HACCP)、食品安全マネジメントシステム(ISO22000)、サプライチェーンを考慮して栽培や流通の計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>思考・判断・表現</b> 安心・安全な栽培管理・流通などについての計画を考え、作成している。(記述や発言の内容など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業分野の最先端技術について意欲的に学ぶ。 (例) 大学(院)農学部研究室、又は農業試験場などへ訪問する。 (大学進学、公務員受験希望者の視点を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関心・意欲・態度</b> 農業分野の最先端技術の研究について関心を持ち、新しい農業技術に興味をもつ。(記述内容など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統農業、又はグリーンツーリズムとしての農業について学ぶ。 (例) 地域の伝統農業(世界農業遺産・伝統野菜など)、及びグリーンツーリズム(体験農園)・市民農園としての農業について調べ学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>知識・理解</b> 地域の伝統農業、又はグリーンツーリズムとしての農業についての知識を身に付け、その意義と役割を理解している。(筆記テストや記述内容など)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力機構(JICA)の取組について学ぶ。 (例) JICA職員の講話、青年海外協力隊OB・OGの体験談、OISCA研修生との対談を通して、国際協力としての日本の農業について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>思考・判断・表現</b> 国際協力としての日本の農業についての知識を身に付け、その意義と役割について考える。(筆記テストや記述内容など)</li> </ul>	

※ 農業科「アグリプレナーへの扉」は、あくまでも学校設定科目の一例です。実際の開設に当たっては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、学校が創意工夫を生かし設定するものであり、従来の科目で対応できない理由と育成すべき学力を明確に示し、所管の教育委員会等の承認が必要となります。

## 学校設定科目「匠への扉」

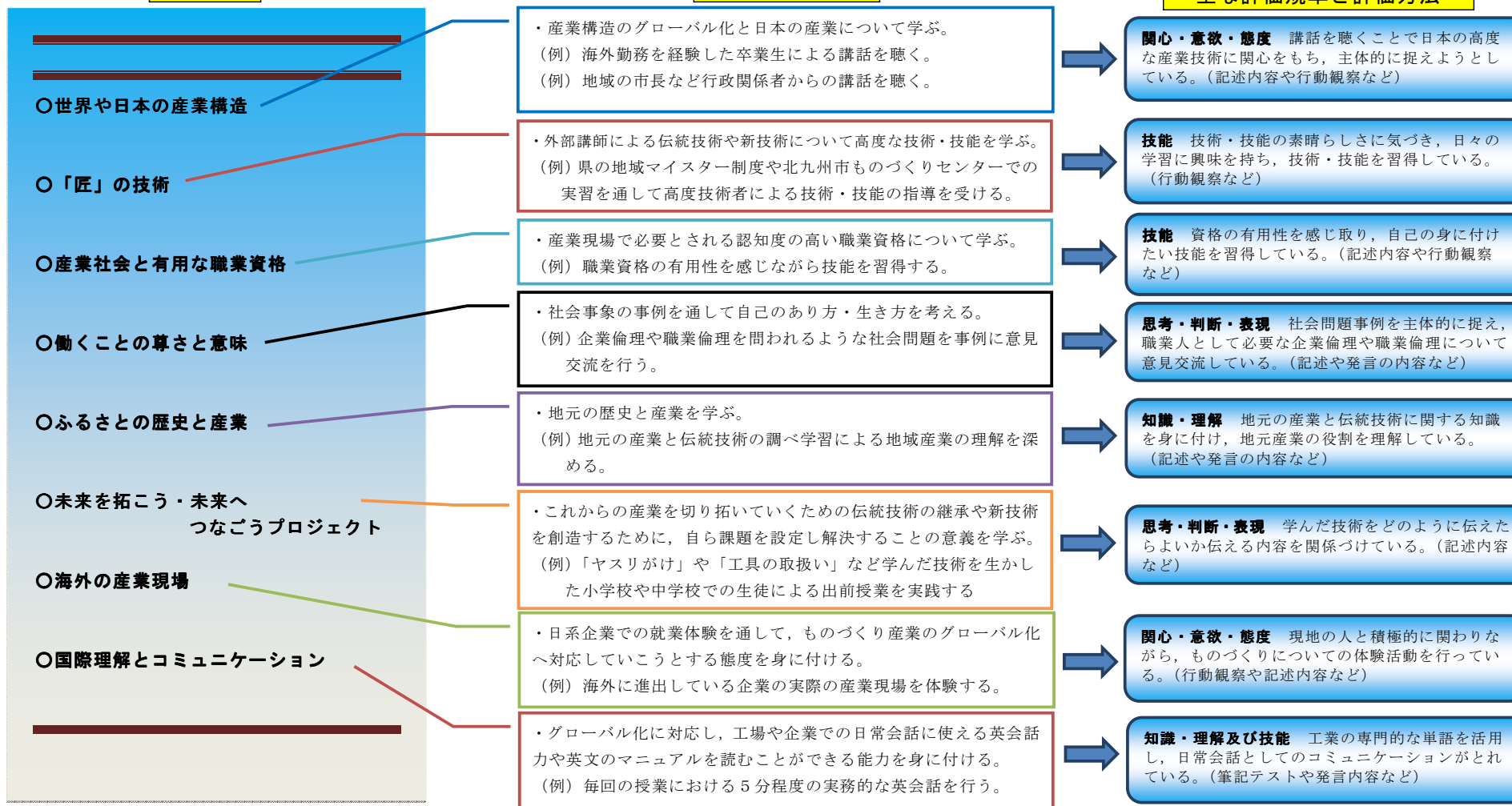
魅力ある工業教育を  
目指して

- 目標**
- (1) 実際の・体験的な学習を通して専門教科への学びの意識を高め、工業技術の高度化に対応できる専門的知識・技術を身に付けさせる。
  - (2) ものづくり産業の担い手として何を学ぶべきか、自分自身にとって何が必要かを考えさせながら、学んだ知識・技術を世の中のために役立たせる職業観・倫理観を身に付けさせる。
  - (3) 未来のものづくり産業を担うために、自発的に課題の設定や解決を図ろうとする資質を身に付けさせる。
  - (4) 今後のさらにグローバル化する国際分業の進展に対応できる必要なコミュニケーション能力を身に付けさせる。

### 単元

### 学習内容・活動

### 主な評価規準と評価方法



※ 工業科「匠への扉」は、あくまでも学校設定科目の一例です。実際の開設に当たっては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、学校が創意工夫を生かし設定するものであり、従来の科目で対応できない理由と育成すべき学力を明確に示し、所管の教育委員会等の承認が必要となります。

## 学校設定科目「イノベーションへの扉」

魅力ある商業教育を目指して

- 目標**
- (1) 实际的・体験的な学習を通して専門教科への学びの意識を高め、専門的知識・技術を身に付けさせる。
  - (2) ビジネスの担い手として何を学ぶべきか、自分自身にとって何が必要かを考えさせながら、学んだ知識・技術を世の中のために役立たせる職業観・倫理観を身に付けさせる。
  - (3) 未来の産業を担うために、自発的に課題の設定や解決を図ろうとする資質を身に付けさせる。
  - (4) 今後のさらにグローバル化するビジネスに対応できる必要なコミュニケーション能力を身に付けさせる。

### 単元

### 学習内容・活動

### 主な評価規準と評価方法

○世界や日本の産業構造の理解

○「イノベーション」の授業  
～未来の商業エキスパート～

○専門深化とビジネス実践力の強化

○職業観・勤労観の育成

○ふるさとの商業

○未来を拓こう・未来へ  
つなごうプロジェクト

○グローバルビジネスとコミュニケーション

・ビジネス最前線の現状を学ぶ。  
(例) 企業や行政のトップの方の、ビジネスの視点をふまえた世界や日本の現状と将来、商業を学習する高校生への期待の講話を聴く。

・興味・関心のある各分野（サービス、マーケティング、会計、IT）において業界の現状とプロとしての在り方・生き方を学ぶ。  
(例) 各分野に分かれ、各業界のエキスパートから、商業を学ぶ生徒に、体験を交えて各業界を目指す心得の授業を行ってもらい、将来の夢を考えるきっかけとする。

・基礎的な検定試験のみならず、上級学校と連携し、より高度な専門性の深化を図り、実践力を身に付ける。  
(例) より高度な知識を学習しながら、実際のビジネスで必要な実務能力（対人関係能力、事務処理能力など）を強化していく。

・働くにあたって、企業倫理や職業倫理の大切さを学ぶ。  
(例) 企業倫理や職業倫理を問われる社会問題を事例に取り上げ、ディベートや意見討論する。

・地元の伝統産業について学び、地元の将来について、行政と大学を交えて一緒に考え、創造して提案する。  
(例) 地元の職人の方や店主の方をお招きして、地元への思いと商業を学ぶ生徒への期待を語っていただき、住みよいまちとは何かを考え、アイデアを提案する。

・小・中連携から、教科「商業」の学習の大切さを学ぶ。  
(例) キャリア教育の視点から、生徒が小学校や中学校に外向き、総合学習と関連させて、商業の授業を行うことで、学習の重要性を再確認する。

・外国語科と連携し、授業の中でビジネス英会話を行い、日頃からビジネスに必要な語学力とグローバル感覚を身に付ける。  
(例) 授業の開始時に、順番にビジネス英会話の発声を行う。

**関心・意欲・態度** 講話を聴くことによって、ビジネスの最前線を知るとともに、ビジネスに興味・関心をもって、学習に取り組んでいる。（記述内容や行動観察など）

**関心・意欲・態度** 各業界のエキスパートの方から、体験を通して、プロとしての在り方・生き方を学ぼうとしている。（記述内容や行動観察など）  
**知識・理解** 各業界の現状と求められる人材等について理解している。（記述や発言の内容など）

**知識・理解** 商業の基礎・基本を大切に、より高度な学習にチャレンジし、専門性の深化を図っている。（テストや行動観察など）  
**技能** 学習していることを実践力として、様々な場面で生かしていくことができる。（行動観察など）

**思考・判断・表現** 事例に対する自分の考えをまとめ、わかりやすいように周りの人に伝えることができる。（記述や発言の内容など）

**思考・判断・表現** 地元の伝統産業について学び、地元の方の思いから、将来のまちの在り方について考え、新しいアイデアを提案している。（発言内容や行動観察など）

**技能** 日頃学習していることを、キャリア教育の視点から小・中学生にオリジナル教材を使ってわかりやすく伝えている。（行動観察など）

**思考・判断・表現** 改めて商業を学ぶことの大切さを考えている。（記述内容や行動観察など）

**知識・理解** グローバルの視点をもったビジネス人として、ビジネス英語を理解し、話すことができる。（筆記テストや発言内容など）

## 学校設定科目「ファッションクリエイターへの扉」

魅力ある家庭科教育を  
目指して

### 目標

- (1) 实际的・体験的な学習を通して専門教科への学びの意識を高め、専門的知識・技術を身に付けさせる。
- (2) アパレル産業の担い手として自発的に課題の設定や解決を図ろうとする資質を身に付けさせる。また、ファッションデザインに関する法的保護を遵守しようとする倫理観を身に付けさせる。
- (3) 未来のファッション業界を担うために、海外市場で活躍できるコミュニケーション能力を身に付けさせる。
- (4) グローバル社会において我が国の服飾文化を理解し、他国の文化を尊重できる能力を身に付けさせる。

### 単元

### 学習内容・活動

### 主な評価規準と評価方法

#### ○アパレル産業の現状と未来

・世界のアパレル産業の最先端について学ぶ。  
(例) ファッションの国際見本市の会場に出向き、新しい製品や展示の様子を見学する。

**関心・意欲・態度** 新しい製品やその展示方法に関心をもって見学している。(記述内容など)

#### ○アパレル産業の実務

・電子商取引における服飾の情報発信技術について意欲的に学ぶ。  
(例) 服飾に関する教育用アプリケーションを活用し、コーディネート作品を製作する。

**技能** 魅力的なコーディネート情報になるように ICT 機器を活用して作品を製作できる。(作品など)

#### ○服飾と伝統文化

・世界の刺繍の特色を学び、日本の刺繍と比較して日本の伝統文化の良さを理解する。  
(例) リボン刺繍(もしくは日本刺繍)をあしらったポーチを製作する。(服飾手芸で取り扱わない刺繍の種類を選択して作品を製作する。)

**技能** リボン刺繍(もしくは日本刺繍)などの専門的な技術を習得している。(行動観察や作品など)

#### ○環境とアパレル産業

・アパレル産業と持続可能な社会との関わり方について学ぶ。  
(例) エシカルファッションや古着のリサイクルについて調べ学習を行う。

**関心・意欲・態度** 環境に配慮した衣生活の在り方について興味をもっている。(記述内容など)

#### ○アパレル産業と倫理観

・アパレル産業に従事する職業人としてファッションデザインの法的保護について学ぶ。  
(例) 流行の服のデザインを真似ることとブランドデザインの盗用について調べ学習を行い、考える。

**思考・判断・表現** 流行と模倣の違いについて調べ学習を通して考え、その内容を適切に表現している。(記述内容など)

#### ○地域社会におけるアパレル産業

・地元のアパレル産業の特徴を理解し、消費者のニーズに合った服飾について学ぶ。  
(例) 地元のアパレル産業のターゲットと特徴、その地域の住民のニーズを勘案し、消費者が喜ぶ服飾の組み合わせを考え、各店舗の商品を借りてファッションショーを企画・実行する。

**技能** 地域住民のニーズと地元アパレル産業の特徴をまとめ、商品を魅力的にコーディネートできる。(作品など)

#### ○未来を拓こう・未来へ つなごうプロジェクト

・アパレル産業の最先端ビジネスについて学ぶ。  
(例) 高い技術力をもつ日本の工場からインターネットを通じて直接消費者に販売するビジネスの実践例を聴く。

**関心・意欲・態度** アパレル産業における日本の高い技術力や電子商取引による工場直売に興味をもつ。(記録内容など)

#### ○グローバル社会におけるファッション

・自分の作品を海外の人に理解してもらうために必要な語学力を身に付ける。  
(例) 福岡の伝統文化の要素を盛り込んだデザイン画や作品のポスターセッションを外国語指導助手に向けて行う。

**知識・理解** ファッションに関する英語の専門用語を理解できている。(ポスターセッションの内容など)

※ 家庭科「ファッションクリエイターへの扉」は、あくまでも学校設定科目の一例です。実際の開設に当たっては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、学校が創意工夫を生かし設定するものであり、従来の科目で対応できない理由と育成すべき学力を明確に示し、所管の教育委員会等の承認が必要となります。




2 農業科における既存科目工夫版の提案例  
 (1) 新技術・先進的な取組を取り入れた学習内容

※ 評価の観点は主なものを示す

科目名	農業情報処理 実施学年2年 単位数2単位
目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
内容	(1)産業社会と情報 (2)情報モラルとセキュリティ (3)情報技術 (4)農業情報及び環境情報の活用 (5)農業学習と情報活用

カリキュラムの工夫の視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; background-color: #fff9c4;">新技術</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">伝統</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">学科連携</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">学校連携</div> </div>
--------------	---

<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 10px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">AIシステムによる生産技術とは！</div> 		単 元 名 (主な学習項目)	配時
	1 学期	①生活と農業の情報化 ②情報の基礎 ③インターネットを利用した情報の収集 ④ワードプロセッサの活用 ⑤表計算ソフトウェアの活用	2 2 4 8 8
	2 学期	⑥図形処理ソフトウェアの活用 ⑦プレゼンテーションソフトウェアの活用 ⑧Webページの作成 ⑨情報システム ⑩AIシステムを活用した農業について ⑪クラウドを活用した農業について	4 4 4 4 6 4
	3 学期	⑫販売管理システムによる販売体験活動 ⑬海外販売用HPの作成 ⑭農業学習とプロジェクト学習 ⑮プロジェクト発表と情報発信	4 6 4 6

特に重点化する単元	⑩⑪・⑫⑬
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> 情報技術を用いた新しい農産物の生産と販売について体験的に学ぶことにより、農業情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b> 新たな農業分野の情報発信及び情報活用の実践的活動により、将来の生産販売活動への意欲化を図ることができる。</p>

⑩AIシステムを活用した農業について <b>【6時間】</b>	<p><b>内容</b> 新しい農業生産技術1 『AIシステムを活用した農業について』  <small>《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</small></p> <p>※AIシステム:AI(アグリインフォマティクス)システムは、農業者からのデータに基づき、データベースと当該農業者の現在の状態を比較、解析し、最適なアドバイスを提供する。</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● AIシステムによる生産技術について説明を聴く。</li> <li>● 実際に実習のどのような場面でAIシステムが活用できるかを班で考えてまとめる。</li> <li>● まとめた内容を発表し合い意見交換を行う。</li> </ul>
⑪クラウドを活用した農業について <b>【4時間】</b>	<p><b>内容</b> 新しい農業生産技術2 『クラウドを活用した農業について』  <small>《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クラウドを活用した農業について説明を聴く。</li> <li>● 「農業クラウドを導入して、こんな農業経営をやってみよう！」というテーマについて班で考えてまとめる。</li> <li>● まとめた内容を発表し合い意見交換を行う。</li> </ul>

⑫販売管理システムによる販売体験活動 <b>【4時間】</b>	<p><b>内容</b> これからの農産物販売技術1 『販売管理システムによる販売体験活動』  <small>《関心・意欲・態度》《知識・理解》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IT関連企業が行っている農産物販売技術について説明を聴く。</li> <li>● 市場(需要と供給)について、データを分析する。</li> <li>● インターネットを用いた栽培履歴の提供と販売を模擬体験する。</li> </ul>
⑬海外販売用HPの作成 <b>【6時間】</b>	<p><b>内容</b> これからの農産物販売技術2 『海外販売用HPの作成』  <small>《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外における日本の農産物販売について調べる。</li> <li>● グループで海外での農産物販売について意見交換を行う。</li> <li>● 海外販売用HPを作成する。</li> <li>● 作成したHPについて発表し、意見交換を行う。</li> </ul>


アピールポイント	<p>農業における急速な情報化やグローバル化に対応する能力が育つ。</p>
----------	---------------------------------------

(2) 伝統・文化継承を取り入れた学習内容

<b>科目名</b> (学校設定科目)	<b>アグリプレナーへの扉</b> 実施学年2年 単位数2単位
<b>目標</b>	(1) 実際の・体験的な学習を通して専門教科への学びの意識を高め、専門的知識・技術を身に付けさせる。 (2) 日本あるいは地域の農業の担い手として何を学ぶべきか、自分自身にとって何が必要かを考えさせる。また、農業高校で学んだ知識・技術を世の中のために役立たせようとする倫理観を身に付けさせる。 (3) 未来の産業を担うために、自発的に課題の設定や解決を図ろうとする資質を身に付けさせる。 (4) グローバル人材として求められる日本の高い栽培技術と高い専門性などについて理解させ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。
<b>内容</b>	(1) 農業と行政の取組・行政への農業の関わり方を通して、歴史環境保全につながる伝統的農業形態を学び、農業の多面性について考える。 (2) グローバル化が進み、生産性や効率性の向上を目指す近代化農業が世界的に進む中で、失われつつある伝統的な農業システムを次世代に継承する意義を学ぶ。

<b>カリキュラムの工夫の視点</b>	新技術	<b>伝統</b>	学科連携	学校連携
---------------------	-----	-----------	------	------

**九州の農業生産額は全国の2割です！**



	単元名(主な学習項目)	配時
1 学期	① 日本農業の局面(農業新時代)	2
	② グローバル化時代の渦中にある日本の農業とは	2
	③ 「アグリプレナー」(※1)について(イノベーションへの取組1を含む) (※1)農業に関する新しい事業を起す起業家(起業家)	6
	④ 実学の時間1	6
	⑤ ふるさとの農業について	2
	⑥ 実学の時間2	6
	⑦ 安全・安心な農業について(法令遵守、倫理観の育成)	2
2 学期	⑧ 実学の時間3	6
	⑨ 未来を拓こう・未来へつなごうプロジェクト1	2
	⑩ 実学の時間4	6
	⑪ 未来を拓こう・未来へつなごうプロジェクト2	2
	⑫ 実学の時間5	6
3 学期	⑬ 中間発表会(イノベーションへの取組2)	2
	⑭ 実学の時間6	2
	⑮ 国際協力としての農業	6
	⑯ 実学の時間7	2
	⑰ 発表会の準備(イノベーションへの取組3)	6
⑱ 発表会(イノベーションへの取組4)	4	

<b>特に重点化する単元</b>	<b>⑤・⑪</b>
<b>ねらいと効果</b>	<p><b>【ねらい】</b> 地域の農業の特長を主体的にとらえさせたり、地域の伝統農業の意義や価値を発見させたりすることができる。</p> <p><b>【効果】</b> 地域の農業について意欲的に学び、主体的に課題を発見し考えをまとめることができる。</p>

⑤ふるさとの農業について  
【2時間】

**内容** 九州および福岡県の農業『ふるさとの農業について』  
《関心・意欲・態度》《知識・理解》《思考・判断・表現》

**活動**

- 全国の約2割の農業産出額を誇る「農業王国」九州の農業、福岡県全体及び県内各地域の農業について調べる。
- 調べた内容について各グループで発表する。
- 発表内容を基に意見交換を行う。
- 各グループで内容をまとめる。
- グループの代表者が発表する。

⑪未来を拓こう・未来へつなごうプロジェクト2  
【2時間】

**内容** 地域の伝統農業『未来を拓こう・未来へつなごうプロジェクト2』  
《関心・意欲・態度》《知識・理解》《思考・判断・表現》

**活動**


- 地域の伝統農業(農業遺産・伝統野菜・農村文化・里山文化・食文化など)について調べる。
- 調べた内容について各グループで発表する。
- 発表内容を基に意見交換を行う。
- 各グループで内容をまとめる。
- グループの代表者が発表する。

**アピールポイント**

**地域農業の特長や伝統農業の価値を認識し、将来の地域農業を支えようとする態度が育つ。**

科目名	自動車工学 実施学年2年 単位数2単位
目標	自動車の構造と機能に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
内容	(1)人と自動車 (2)自動車の原理 (3)自動車の構造 (4)自動車と電気・電子技術 (5)自動車と安全 (6)自動車と環境

カリキュラムの工夫の視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; background-color: yellow;">新技術</div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; background-color: lightblue;">伝統</div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; background-color: lightblue;">学科連携</div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; background-color: lightblue;">学校連携</div> </div>
--------------	--

		単元名(主な学習項目)	配時
<div style="background-color: orange; padding: 10px; border-radius: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">環境にやさしい自動車とは！</div> 	1学期	①自動車の発達	4
		②ガソリンエンジン	6
		③ディーゼルエンジン	6
		④水素燃料の自動車の可能性と未来	8
2学期	⑤地球の資源とエコ自動車の未来	8	
	⑥自動車の原理	4	
	⑦ボディフレームの軽量化と安全性	6	
	⑧低燃費世界一を目指して	8	
3学期	⑨走行と性能	6	
	⑩自動車の電子制御装置	6	
	⑪発電装置	4	
	⑫人と自動車	4	

特に重点化する単元	④⑤・⑦⑧
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> 最新のテクノロジーを知り、その技術を体感することで未来の自動車を創造していこうとする態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b> 新たな自動車の可能性を追究することを通して、地球の環境保全や未来の自動車の安全性への開発意欲へとつなげる。</p>

④水素燃料の自動車の可能性と未来 <b>【8時間】</b>	<p><b>内容</b> これからの新しい自動車の在り方と未来 『燃料電池自動車の開発の魅力』  <small>《関心・意欲・態度》《知識・理解》</small></p> <p>※燃料電池自動車は水素と酸素の化学反応で電気エネルギーを得て走る自動車。大学の講師を招聘し、開発の歴史やノウハウ、魅力を探る。</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料電池自動車の生産技術の魅力を探る。</li> <li>● 水素自動車の秘密と魅力について講話を聴く。</li> <li>● 水素で動く模型自動車を走らせる体験活動をする。</li> </ul>
⑤地球の資源とエコ自動車の未来 <b>【8時間】</b>	<p><b>内容</b> 地球環境とその資源とその保全と技術の関係 『資源の終わりは地球の終わり～環境保全と最新技術～』  <small>《関心・意欲・態度》《知識・理解》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大気汚染と省エネルギー対策の課題を調べる。</li> <li>● E1グランプリの活動を調べ、実際に体験する。</li> <li>● 企業のエコ自動車開発プロジェクトを調べる。</li> <li>● エコ自動車開発プロジェクトの工夫やその実践を学ぶ。</li> </ul>

⑦ボディフレームの軽量化と安全性 <b>【6時間】</b>	<p><b>内容</b> 軽量化と安全性の矛盾を解決する安全装置や対策 『アクティブセーフティとその可能性を探る』  <small>《関心・意欲・態度》《技能》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンチロックブレーキとトラクションコントロールシステムの安全性を分析する。</li> <li>● 衝突とクッション性や車体重量とブレーキの関係を分析する実験や体験活動をする。</li> </ul>
⑧低燃費世界一を目指して <b>【8時間】</b>	<p><b>内容</b> 目指せ！世界一の低燃費車と地球環境 『代替エネルギーの利用とその可能性』  <small>《思考・判断・表現》</small></p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 代替エネルギーの種類と可能性について調べる。</li> <li>● 再資源化やリサイクルの工夫と自動車の関係を調べる。</li> <li>● 「環境保全プロジェクト」の発表会を行う。</li> <li>● 自動車メーカーの技術者からの評価を受け今後の方向性について考える。</li> </ul>

アピールポイント


未来の自動車の開発を進める技術者の素地が育つ。



科目名	機械工作 実施学年2年 単位数2単位
目標	機械工作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
内容	(1)機械工作法の発達(2)機械材料(3)各種の工作法(4)工業量の測定と計測機器(5)生産の管理(6)機械加工と生産の自動化の基礎

カリキュラムの工夫の視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; background-color: #ffe0e0;">新技術</div> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 2px; background-color: #ffff00;">伝統</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; background-color: #e0e0ff;">学科連携</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; background-color: #e0e0ff;">学校連携</div> </div>
--------------	---

伝統的材料から新素材へ！



	単元名(主な学習項目)	配時
1学期	①機械工業のあらし	4
	②機械材料とその加工性	20
2学期	③新素材とその可能性	8
	④鋳造	10
	⑤溶接	8
3学期	⑥塑性加工	12
	⑦表面処理	8

特に重点化する単元	②・③
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> さまざまな用途で使用されている機械材料を自ら調べ、その性質を実験などにより体験的に学ぶことで機械材料を主体的に活用する能力と態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b> これまでの学びに、実際の及び体験的な学びを強化することにより、意欲的に機械材料の性質を捉え、実際の活用力の向上を図ることができる。</p>

②機械材料とその加工性(金属) 【12時間】	<p><b>内容</b> 伝統的金属材料を知る 『機械材料とその加工性(金属)』 《関心・意欲・態度》《知識・理解》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな用途で使用されている金属材料の種類を調べる。</li> <li>●さまざまな用途で使用されている金属材料の性質を知るために実験する。</li> <li>●さまざまな用途で使用されている金属材料の結晶構造の違いを調べ、性質との関係性を考察する。</li> </ul>
②機械材料とその加工性(非金属) 【8時間】	<p><b>内容</b> 伝統的非金属材料を知る 『機械材料とその加工性(非金属)』 《関心・意欲・態度》《知識・理解》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな用途で使用されている非金属材料の種類を調べる。</li> <li>●さまざまな用途で使用されている非金属材料の性質を知るために実験する。</li> </ul>

③新素材とその可能性 【4時間】	<p><b>内容</b> 新素材を知る 『新素材とその可能性』 《関心・意欲・態度》《知識・理解》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に活用されている新素材について調べる。</li> <li>●新素材を活用する製造現場を見学する。</li> <li>●従来の機械材料と新素材の特性を比較し考察する。</li> </ul>
③新素材とその可能性 【4時間】	<p><b>内容</b> 新素材の可能性 『新素材とその可能性』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループ活動を設定し、新素材やその用途について発案し、討議する。</li> <li>●発案した新素材について企業や研究機関などでその価値を評価してもらう。</li> </ul>

アピールポイント

今後の機械材料を開発していこうとするチャレンジ精神が育つ。




4 商業科における既存科目工夫版の提案例

(1) 新技術・先進的な取組を取り入れた学習内容1

※ 評価の観点は主なものを示す

科目名	ビジネス経済応用 実施学年3年 単位数2単位
目標	ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済社会の動向について理解させるとともにサービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。
内容	(1)サービス経済化とサービス産業 (2)経済の国際化 (3)金融市場と資本市場(4)企業経営 (5)ビジネスの創造と地域産業の振興

カリキュラムの工夫の視点	新技術	伝統	学科連携	学校連携
--------------	-----	----	------	------

<div style="background-color: #fff2cc; padding: 5px; border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; text-align: center;"> <b>地域資源を新しいビジネスに</b> </div> 	単元名(主な学習項目)	配時	
	1学期	①産業構造の変化と労働 ②サービス産業の現状 ③企業の国際化・グローバル化 ④国際化の進展と国際収支 ⑤貿易の利益と課題 ⑥国際資本移動	3 4 4 4 10
	2学期	⑦外国為替 ⑧貯蓄と投資の動向 ⑨金融資本市場と資本市場の役割 <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">⑩企業経営と外部環境</span> <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">⑪企業の海外進出と経営</span> ⑫起業の手続き <span style="border: 2px solid blue; padding: 2px;">⑬新たなビジネス展開</span> <span style="border: 2px solid blue; padding: 2px;">⑭地域ビジネス事情</span>	6 3 2 7 4 8
	3学期	⑮金融市場と資本市場の課題 ⑯企業経営の特色 ⑰企業経営の社会的責任	3 4 4

特に重点化する単元	⑩⑪・⑬⑭
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b>経済や企業の海外進出の動向に着目でき、地域資源を活用した海外展開の在り方に関する能力と態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b>国内経済だけでなく、海外へも視野を広げ、地域資源の特色を生かした新しいビジネスを起こすための意欲化が図られる。</p>


⑩企業経営と外部環境 ⑪企業の海外進出と経営 <b>【9時間】</b>	<p><b>内容</b> 日本の産業(衣料品と食品)の海外進出の要因 『企業経営と外部環境』『企業の海外進出と経営』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</p> <p><b>活動</b> ●衣料品と食品分野のメーカーや小売業の方を招聘し、景気変動指数や物価指数との絡みから、海外に出店したり、海外へ直接投資したりする現状についての話を聞き、今後の企業経営の視点を学ぶ。</p> <p>●企業が現地法人化し、現地で企業経営を行っていく場合の経営の在り方を日本国内での経営と比較し、今後の衣料品と食品分野のビジネスの方向性について考える。</p>
---	--

⑬新たなビジネス展開 ⑭地域ビジネス事情 <b>【12時間】</b>	<p><b>内容</b> 地域資源を活用した新しいビジネスの機会の創造 『新たなビジネス展開』『地域ビジネス事情』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》《技能》</p> <p><b>活動</b> ●地域資源をビジネスの機会と捉え、地域資源を海外に売り込んでいる事例などを調べながら、なぜ海外に売り込んでいるのか、そのことが地域活性化にどのようにつながっていくのか、商工会議所や行政の方とともに考える。</p> <p>●地域の強みと弱みを分析し、経済指標を国際比較しながら、地域を新たに売り込むための地域資源を活用した新しいビジネスについて、商工会議所や行政の方とポスターセッションを行う。</p>
--	--

<b>アピールポイント</b>	<b>地域資源を活用した新しいビジネスの展開の仕方を学ぶために、経済と企業の海外ビジネスの実際を学ぶ。</b>
-----------------	---

科目名	プログラミング 実施学年2年 単位数3単位
目標	プログラミングに関する知識と技術を習得させ、プログラムの役割や重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。
内容	(1)コンピュータとプログラム (2)プログラミングの基礎 (3)プログラミングの応用(4)ソフトウェア(5)ハードウェア

カリキュラムの工夫の視点	新技術	伝統	学科連携	学校連携
--------------	-----	----	------	------

<p style="color: red; font-weight: bold;">ビジネスに生かすプログラミングを</p> 		単 元 名 (主な学習項目)	配時
	1 学 期	①ビジネスと情報処理システム 1 ②プログラミングの手順 ③データの入出力と演算 ④アルゴリズムの表現技法 ⑤条件判定とくりかえし処理	3 6 9 9 9
	2 学 期	⑥オブジェクト指向の考え方 ⑦メソッドの利用 ⑧配列の利用 ⑨例外処理とストリーム ⑩ユーザインターフェイス⑪文字や画像などの処理 <span style="border: 2px solid blue; padding: 2px;">⑫ビジネスと情報処理システム 2</span>	12 12 18 6
	3 学 期	⑬ハードウェア ⑭ソフトウェア <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">⑮ビジネスと情報処理システム 3</span> <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">⑯ビジネスと情報処理システム 4</span>	9 6 6

特に重点化する単元	⑫・⑮・⑯
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b>プログラムを作成する知識と技術を習得させ、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b>産学官連携による取組によって、既習の知識と技術を新しいビジネスに生かすための意欲が図られる。</p>

⑫ビジネスと情報処理システム2  
【6時間】

内容	産学官連携によるプログラミング言語「Java」を活用した新しいビジネス展開『ビジネスと情報処理システム2』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで学習してきた知識と技術を、産学官で連携し、新しいビジネスへ生かすための話を聞き、アドバイスをいただく。</li> <li>●現代社会において、Javaを活用したプログラムがどのように私たちの生活の中で生かされているのかを学習し、私たちができることをビジネスの視点で探していく。</li> </ul>

⑮ビジネスと情報処理システム3  
⑯ビジネスと情報処理システム4  
【12時間】


内容	「Java」を活用した、新しいビジネスプランの提案『ビジネスと情報処理システム3, 4』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》《技能》
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれ意見を出し合いながら、みんなでJavaを活用した新しいビジネスプランを産業界や大学関係者の方々に提案する。</li> <li>●設計書とフローチャートを作成し、プレゼンテーションを行い、学校のホームページにアップする。</li> </ul>

アピールポイント

新しいビジネスプランを提案できる力を身に付けるために、産学官での連携によるビジネスに生かすプログラミングを学ぶ。

科目名	ビジネス基礎 実施学年1年 単位数2単位
目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。
内容	(1)商業の学習ガイダンス (2)ビジネスとコミュニケーション(3)ビジネスと売買取引(4)経済と流通の基礎(5)企業活動の基礎

カリキュラムの工夫の視点	新技術	<b>伝統</b>	学科連携	学校連携
--------------	-----	-----------	------	------

<p style="text-align: center; color: #c00000;">まちの歴史と伝統を商業の学びに</p> 	単 元 名 (主な学習項目)		配時
	1 学期	①商業を学ぶ目的と学び方	12
		②商業の学習分野と職業	2
		③ビジネスに対する心構え	2
④良好な人間関係とコミュニケーション		4	
⑤ビジネス情報の入手と活用		4	
2 学期	⑥経済の基礎 ⑦ビジネスの発展	6	
	⑧流通の意義と役割	4	
	⑨売買業者のビジネス	4	
	⑩流通活動とマーケティング	4	
	⑪企業の形態と経営組織 ⑫資金調達	4	
⑬ビジネスの担当者 ⑭企業活動と税	4		
3 学期	⑮雇用	4	
	⑯売買取引の方法 ⑰代金決済の方法	6	
	⑱電子商取引と代金決済	4	
	⑲ビジネス計算の基礎	6	

特に重点化する単元	①
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> 博多のまちの歴史、商人の思いを通して、これから教科「商業」を学ぶことへの意欲を高める。</p> <p><b>【効果】</b> 将来に夢を抱き、教科「商業」を学ぶことに対して、自信と誇りがもてる。</p>

①商業を学ぶ目的と学び方 【4時間】	<p><b>内容</b> 商業の原点は、商人による行商から！ 『商業を学ぶ目的と学び方』 《関心・意欲・態度》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 近江商人から博多商人までの思いを、博多商人の方から直接講話を聴き、商人の思いを知ることから、商業の重要性や意義と役割について考える。</li> <li>● 神社やお寺の方から、博多のまちの歴史や商人に対する思いを聴き、商業を学習することの大切さを学ぶ。</li> </ul>
①商業を学ぶ目的と学び方 【8時間】	<p><b>内容</b> 4つのまちから成り立っている 商人のまち博多の謎 《関心・意欲・態度》《技能》《思考・判断・表現》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光協会や行政の方とともに、博多の魅力の視点から博多の4つのまち「奈良屋町」「大浜町」「御供所町」「冷泉町」4つの誕生と歴史、文化について、自ら歩いて調べる。</li> <li>● 地元の店主の方によるうどん作り、そば作り体験から、うどん、そば発祥の地に込められた博多への思いを感じとる。</li> <li>● 博多の土産、食について自ら調べ、そこに込められた思いを考える。</li> <li>● 九州の商業中心都市「天神」や「博多駅」の個性的な建築やアートから商業の魅力を探る。</li> </ul>

アピールポイント
<p>商人のまち博多の歴史と伝統、食文化を体験することで、教科「商業」を学ぶことへの自信と誇りをもつ。</p>




5 家庭科における既存科目工夫版の提案例  
 (1) 新技術・先進的な取組を取り入れた学習内容

※ 評価の観点は主なものを示す

科目名	ファッションデザイン 実施学年2年 単位数2単位
目標	ファッションデザインの基礎、発想と表現法などに関する知識と技術を習得させ、ファッションを創造的にデザインする能力と態度を育てる。
内容	(1)ファッションデザインの基礎(2)ファッションデザインの発想と表現法(3)ファッションデザインと流行(4)ファッション産業

カリキュラムの工夫の視点	新技術	伝統	学科連携	学校連携
--------------	-----	----	------	------

<p style="color: red; font-weight: bold;">企業で行われている手法を用いた商品企画</p> 	単元名(主な学習項目)		配時
	1 学期	①ファッションデザインとは何か	4
		②ファッションデザインと形態・色彩	8
		③ファッションデザインと文様	6
④ファッションの美的統一		6	
2 学期	⑤ファッションデザインの発想と表現	8	
	⑥ファッション画による表現	6	
	⑦各種素材による表現	4	
	⑧ファッションデザインの目的と発想	8	
3 学期	⑨ファッションデザインの条件	2	
	⑩目的と条件を満たすファッションデザイン	2	
	⑪ファッション産業と専門職	4	
	⑫商品企画	12	

特に重点化する単元	⑪⑫
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> アパレル産業の生産システムに基づいた一連の学習活動を通して、消費者ニーズに応じたファッション産業について考えさせる。</p> <p><b>【効果】</b> ファッションショーから衣服の商品企画まで学習することによりアパレル産業への就職に興味をもち学ぶ意欲の向上を図ることができる。</p>


⑪ファッション産業と専門職 【4時間】	<p><b>内容</b> アパレル関連職業の実態 『ファッション産業と専門職』 《関心・意欲・態度》《知識・理解》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファッションショーのリハーサルを見学する。</li> <li>● ファッションショーの主催者による講話を聴く。</li> <li>● ファッションショー関連企業と連携して商品の搬入や来場者への配布物の準備を手伝う。</li> </ul>
⑫商品企画 【12時間】	<p><b>内容</b> ファッション情報の収集と市場調査 『商品企画』 《関心・意欲・態度》《技能》《思考・判断・表現》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 班ごとにICTを使って、被服費、流行の服について情報収集する。</li> <li>● 集めた情報を整理して、衣服の販売価格とデザインなどを分析する。</li> <li>● 分析した内容を発表する。</li> </ul> <p><b>内容</b> 商品試作・開発 『商品企画』 《関心・意欲・態度》《知識・理解》《技能》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 流行っている服をパーツごとに分解する。</li> <li>● 分解したパーツを用いて、価格や機能性、素材やデザインの適性を検討する。</li> <li>● 検討した結果に基づいて実際に衣服を試作する。</li> </ul> <p><b>内容</b> プロモーション企画 『商品企画』 《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</p> <p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元のアパレル産業関係者に対して試作品のプレゼンテーションを行い、評価結果から改善点を分析する。</li> </ul>

**アピールポイント**

最新の市場調査や商品企画の方法を学習することにより実践力や創造力が高まる。

科目名	フードデザイン 実施学年2年 単位数2単位
目標	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ, 食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。
内容	(1)健康と食生活(2)フードデザインの構成要素 (3)フードデザイン実習(4)食育と食育推進活動

カリキュラムの工夫の視点	新技術	伝統	学科連携	学校連携
--------------	-----	----	------	------

<p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">中学生に 日本料理を 伝承する</p> 	単元名(主な学習項目)		配時
	1 学期	①食事の意義と役割	4
		②食を取り巻く現状	8
		③栄養素	6
		④食品の特徴	5
	2 学期	⑤料理形式と献立	5
		⑥テーブルコーディネート	6
		⑦日本料理の調理実習	8
		⑧食育の推進に向けて	8
	3 学期	⑨西洋料理の調理実習	6
⑩中国料理の調理実習		6	
⑪環境に配慮した調理実習		8	

特に重点化する単元	⑧
ねらいと効果	<p><b>【ねらい】</b> 習得した知識や技術を地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に寄与する能力と日本料理を伝承する態度を育てる。</p> <p><b>【効果】</b> 食生活を総合的にデザインすることができるとともに, 伝統文化としての日本料理を通して地域の食生活に対する意識改善を図ることができる。</p>

◎食育の推進に向けて 【8時間】	<b>内容</b> ライフステージと食事計画『食育の推進に向けて』 <small>《関心・意欲・態度》《知識・理解》</small> <small>※ 交流対象は中学生を想定している</small>
	<b>活動</b> ● 中学生の食事摂取基準や食品群別摂取量を調べる。 ● 中学生を対象とした松花堂弁当の献立を考える。
	<b>内容</b> 日本料理の特色『食育の推進に向けて』 <small>《思考・判断・表現》《知識・理解》《技能》</small>
	<b>活動</b> ● 日本料理の特色を調べて整理する。 ● 整理した内容を中学生にわかりやすく示す方法を班で考え, 必要な道具を作る。
	<b>内容</b> 食育活動の計画『食育の推進に向けて』 <small>《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</small>
	<b>活動</b> ● 松花堂弁当の各料理の調理を担当する班を決める。 ● 各班で中学生と高校生がどのように調理を進めるのか話し合う。
<b>内容</b> 食育と伝統文化『食育の推進に向けて』 <small>《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》《技能》</small>	
<b>活動</b> ● 日本料理の特色について中学生に説明する。 ● 中学生と高校生が班に分かれて松花堂弁当で担当する料理を調理する。 ● 調理が完成したものを弁当箱に詰め, 見た目の美しさについて中学生に説明する。 ● 日本料理の調理と試食について感じたことや今後の食生活について中学生と意見交換を行う。	

アピールポイント
日本料理に対する理解が深まり, グローバル人材としての礎が育つ。

科目名 (学校設定科目)	連携開発！地産地消ファームプロジェクト 農業科 工業科 商業科 家庭科 実施学年2年 単位数2単位
目 標	(1) 実際の・体験的な学習を通して地産地消の連携開発の意識を高め、各学校・学科の専門的知識・技術を生かしてプロジェクトを成功させる魅力を発見させる。 (2) 学科別の専門知識・技術のよさや素晴らしさをつかみ、互いの職業の尊さや職業観・倫理観を身に付けさせる。 (3) 未来の産業が互いに協力することで新たな付加価値が生まれる開発について、自発的に課題の設定や解決を図ろうとする資質を身に付けさせる。 (4) グローバル化に対応する知識・技術を統合したり、専門性を連携させる広い視野を広げたりするとともに、世界を意識した産業教育について考えさせる。
内 容	(1) 地元企業と行政の地域活性化等の協力の基に、各学校・学科の特徴を総合的につなげる独自プロジェクトを計画・準備・実践する中で相互の産業教育の魅力をつかむ。 (2) グローバル化が進む中で、独自の開発技術や六次産業化の魅力を味わう。

カリキュラムの工夫の視点	新技術	伝統	学科連携	学校連携
--------------	-----	----	------	------

各校種の専門的知識や技能を集結した新たなものづくりを！

	単 元 名 (主な学習項目)	配時
1 学期	① 地域活性化対策事業の概要と計画	2
	② 農業と工業の関わりと創造的価値	2
	③ 食と商業の関わりと創造的価値	4
	④ 各学校・学科の企画交流会	6
	⑤ 県内の行政機関の地域活性化のビジョンと特長性	2
	⑥ 特産品づくりに関わる各学校・学科の役割	4
	⑦ 地産地消ファームの設立と運営会議	2
2 学期	⑧ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索①	4
	⑨ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索②	4
	⑩ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索③	4
	⑪ 中間発表会による特産品の紹介と価値の共有	6
	⑫ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索④	4
	⑬ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索⑤	4
3 学期	⑭ 実学の時間※各学校・学科ごとの開発特産品を模索⑥	4
	⑮ 地産地消ファームの事前調整会議	4
	⑯ 各学校・学科の事前打合せ	4
	⑰ 地産地消ファーム特産品の品評会	4
	⑱ 地産地消ファーム特産品の即売会	6

特に重点化する単元	④・⑱
ねらいと効果	<p>【ねらい】 地域を活性化させる産業の特長を生かした特産品づくりの意義や価値を発見させたり、消費者ニーズを大切に商品開発をさせたりする。</p> <p>【効果】 地域活性化事業について意欲的に学び、主体的に課題を発見し、それぞれの産業の尊さを共有する中で、ものづくりにおける創造力の育成を図る。</p>

④各学校・学科の企画交流会 【6時間】	<p><b>内容</b> 地域活性を生かす産業の企画力 『地産地消ファームの開発』</p> <p style="text-align: right;">《関心・意欲・態度》《思考・判断・表現》</p>
	<p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元の小麦の生産をさらに活性化する。「地産地消特産品工房」の各学校・学科の役割やできることを考える。</li> <li>● 調べた企画について各学校・学科で発表する。</li> <li>● 発表内容を基に企画会議を行う。</li> <li>● 企画会議の内容を基に各学校・学科の分担の方向性をまとめる。</li> </ul>

⑱地産地消ファーム特産品の即売会 【6時間】	<p><b>内容</b> 地域活性化を推進する産業教育 『地産地消ファーム特産品の即売会の実施』</p> <p style="text-align: right;">《関心・意欲・態度》《知識・理解》《思考・判断・表現》</p>
	<p><b>活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各学校・学科のアピールと特産品を紹介する。</li> <li>● 地産地消ファーム特産品の即売会の準備をする。</li> <li>● 地産地消ファーム特産品の即売会を開催する。</li> <li>● 互いの特産品のよさを共有する。</li> </ul>

アピールポイント
地域活性を発想し、産業を関連させて新たなものづくりを進める創造力を発揮する人材が育つ。